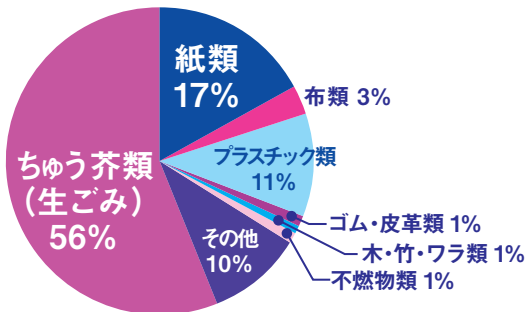


残さず食べてごみの減量を!!

家庭系燃やすごみの組成分析の結果、約60%は生ごみで、その中に含まれている食べ物にはまだ食べられるのに捨てられている物も含まれていました。こうしたごみは「食品ロス」といわれ、国内で年間632万トンも発生しています。一人当たり換算すると1日約136g（お茶碗1杯）が食品ロスとして捨てられていることとなります。※
これは、世界全体で行われている食糧援助量（約320万トン）の約2倍にあたります。

※出典：農林水産省HP

平成27年度 家庭系燃やすごみの組成分析結果(湿重量)



家庭系燃やすごみの組成分析とは？

家庭からの燃やすごみの袋の中身の調査で、ごみの種類別の割合を毎年計測します。これにより、燃やすごみが適正に出されているか、資源化可能なごみの混入状況がわかります。右の写真は家庭系燃やすごみとして捨てられた未開封食品です。この中には賞味期限内の食品も含まれています。せっかく買ったのに、食べずに捨ててしまうのはもったいないです。



残さず食べて『食品ロス』を減らしましょう

値段が安いからといって食材を買い過ぎたり、在庫があるのを忘れて同じ食材を買ってしまうことは、結局使い切れずに食材を腐らせてしまい、食品ロスの原因になります。そんな無駄を防ぐためにも、買い物の前には食品の在庫を確認し、必要なものだけを買うようにしましょう。

外食での食べ残しも食品ロスとなります。忘年会などの宴会では会話に夢中に

なっただまま終了時刻を迎え、大量の食べ残しが発生しているのを目の当たりにした経験があるかと思います。開始30分、終了10分前など、料理を楽しむ時間を作り、残さずに食べて帰ることなどを心がけて、より一層食品ロスの削減に努めましょう。

問合せ 計画課 637-9501



家庭系燃やすごみの組成分析の様子

ごみの減量にご協力をお願いします！



斎場の建替工事を再開しました

～ 施設の安全性を確実に確保します ～

組合では施設の老朽化及び増加する火葬件数に対応するため、平成26年11月から斎場の建替工事を行っていますが、昨年6月、斎場敷地の地中からメタンガスが湧出していることが判明しました。メタンガスは無色無臭の可燃性ガスですが、空气中に拡散されれば危険性はないとされています。しかし、新施設や工事中の安全対策に万全を期すため工事を一時中止し、将来に亘る施設の安全安心を第一に湧出ガスへの対策を調査・検討してきました。調査の結果は、「ガスは今後も継続的に湧出することが見込まれるが、その量は多くはないと推察される」ことから、対策としては、自然換気による方法が最適であると決定し、これを行うため建物構造を一部修正し、10月から工事を再開しました。

このため、新斎場の供用開始予定は、下記のとおり変更となりました。引き続き、工事期間中は利用に関して御不便をお掛けしますが、御理解と御協力をお願いします。

■湧出ガスへの対策(概要)

新斎場の建物1階床レベルを30cm上げ、ガスの排出口を設置するなど建物構造の一部修正を行い、1階床下空間（設備配管を設置する建物の地下部分）に流入するメタンガスを主に自然換気方法により地上外部に排出させます。また、一部に機械換気方法を取り入れ、換気ファンにより外部への排出を確実にすることによって、施設の安全性を確実に確保します。

■工事期間中のお願い

- 待合室及び収骨室は火葬棟の供用開始までは仮設施設となり、仮設待合室は60席/室です。また、仮設待合棟にはロビー席はありませんので、御来場される会葬者の人数等に御配慮いただきますようお願いいたします。
- 駐車場が十分に確保できませんので、バスの利用や相乗り等で御来場くださるようお願いいたします。

■新斎場の供用開始予定

施設	時期
火葬棟（火葬場）	平成30年2月
葬祭棟（葬祭式場）	平成31年9月

※供用開始の具体的な日には、改めてお知らせします。

問合せ 新斎場整備課 637-9504